

鈴なり だよ



オハヨウカイ！大目標が2つありここに合わせてきた1ヶ月、過去女子最速で富士山を登れる日本一速い旅人を目指してやってきましたが、日本一になり損ねた妖怪です。今の率直な気持ちをお伝えします。

フジヒル悲願のゴールド達成

今年はピークアウトもなく、試走でも確かな手応えを感じていたため、「今年なら必ず獲れる」と自信を持ってスタートラインに立つことができました。一方で、前日から潰瘍性大腸炎の影響で体調は万全ではなく、夜中に何度も目が覚めるなど不安もありました。しかし、過去のほとんど眠れなかった経験を思い返し「多少寝不足でも大丈夫」と自分に言い聞かせて当日を迎えました。スタート位置では幸運にも最前列の1枠が空き、狙っていた位置を確保。当日は曇り・ほぼ無風という絶好のコンディションにも恵まれ、「今日は流れが来ている」と前向きな気持ちでレースに臨みました。レースでは事前に決めていたパワーを最後まで守り、周囲の選手と自然に形成されたトレインを活用しながら冷静に走行。試走で課題としていた35分以降も大きく失速することなく耐え続けることができ、練習で取り組んできた成果を実感しました。終盤はゴールド獲得ラインぎりぎりのタイム。苦しさで何度も心が折れそうになりましたが、「ここで諦めたら必ず後悔する」と自分に言い聞かせ、最後の奥庭からゴールまで必死に前へ食らいつきました。さらに終盤にはプラチナを目指す選手が前を牽いてくださり、その力も借りながら最後のスパートへ。手元の時計が64分台を示した瞬間、「ついにやった」と思わず涙があふれました。こうして3回目の挑戦で、目標としてきた女性初のゴールド獲得を達成することができました。この結果は決して一人では成し遂げられたものではありません。自由な活動を支えてくださるスポンサーの皆さま、日頃から応援してくださる鈴なりサポーターの皆さま、そして最高の機材を提供してくださったcannondale様、ARise performance様をはじめ、多くの方々の支えがあったからこそ掴むことができたゴールドです。皆さまへの感謝を胸にこの経験を次の挑戦へと繋げてまいります。

全日本選手権でのゴールド獲得の行方

結果は1位と4分12秒差の3位。2026年の大きな目標として掲げていた全日本優勝は叶いませんでした。今回のレースは、2～3周目で集団を絞り、4周目以降に少しずつ人数を減らし、ラスト2周で独走する展開を思い描いていました。実際、2周目のペースアップから集団は6人まで絞られ、3周目には3人に。登りでは自分が一番余裕を持って走れている感覚があり、「今日は勝てる」と確信していました。しかし、「暑さには強い」「1時間強までボトル1本で十分」という思い込みから補給を軽視し、4周目まで600mlのボトル1本だけで走行。さらに、ボトルには普段より高濃度の糖質を入れていたことで水分吸収がうまくできず、身体は脱水状態になっていたことをあとから知りました。5周目から足に違和感を覚え始め、強く踏むたびに攣りそうな感覚に。補給を始めたものの時すでに遅く、6周目の最後にはふくらはぎ・前もも・ハムストリングが同時に攣り、先頭2人についていくことができませんでした。そこからは、自分の足ではないような感覚の中で、ただ3位を守ることを考えて走りました。この1周は地獄のように苦しく沿道からの応援を聞きながら、悔しさと情けなさで涙が込み上げました。ゴール後は脱水と熱中症の症状により病院で点滴を受けることとなり、自分の甘さを痛感しました。今年家族や友人、スポンサー企業の皆さま、鈴なりサポーターの皆さまなど、本当に多くの方々が南魚沼まで足を運び、日本一を目指す姿を応援してくださいました。その期待に結果で応えられなかったことは、本当に悔しく、申し訳ない気持ちでいっぱいです。今後私がやるべきことは1つだと思っています。同じ過ちを二度と犯さないようにして、次の結果に繋げる。ロードレースは脚力だけでは勝てず、補給や暑さ対策を含め、すべてを準備した選手が勝つ競技だということを身をもって学びました。全日本の悔しさは、全日本でしか返せません。今回の敗戦で、自分が思っていた以上に負けず嫌いだったことを改めて実感しました。この悔しさを糧に、来年こそ日本一を掴み取ります。絶対にリベンジしてみせます。

9月に愛知県で行われるアジア大会に選出されました

先日、JCFより発表があり、9月20～23日に愛知県新城市で開催されるアジア大会への出場が決定いたしました。世界選手権と同時期の開催ということもあり、どちらを希望するか選択する機会がありましたが、私自身のオリンピック出場という目標を考え、アジア大会への出場を希望しました。オリンピックを目指すためにはUCIポイントを積み重ねることに加え、2027年アジア選手権で優勝し、大陸枠を獲得したのち、選手選考にかけるといふ道もあります。そのためにもまずは現在のアジアでの自分の立ち位置を知ることが重要だと考えています。

4年に1度、自国開催となる特別な大会。全日本選手権の結果を踏まえると、自分はエースではなくアシストとしての役割になる可能性が高いですが、チームのメダル獲得のために全力で役割を果たし、全日本で味わった悔しさを力に変えて挑んでまいります。

今後の予定

次戦は8月30日の乗鞍ヒルクライムです。それまでの7月はレースから少し離れ、昨年から温めていた「おひとりツール・ド・フランス」を実施する予定です。ツール・ド・フランスの各ステージをイメージしながら、日本各地を旅して走る企画で、3週間で総距離3,300km以上、獲得標高54,000m超という、自分史上最大のチャレンジになります。仕事やスポンサーライドも組み込みながらの旅になりますが、今からルートを考えたり宿を予約したりと、ワクワクが止まりません。旅の様子はSNSでも随時発信してまいりますので、ぜひ温かく見守っていただけたら嬉しいです。今月も最後までご覧いただき、誠にありがとうございました！